

日本臨床検査医学会ニュース

日本臨床検査医学会

平成20年度第4回理事会 だより

日時：平成20年11月8日(土)12:00~15:45

場所：日本臨床検査医学会 事務所
東京都千代田区神田小川町2丁目2番地
UIビル2階 TEL:03-3295-0351

出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，
高木 康総務担当，玉井誠一会計担当，
米山彰子庶務担当，松野一彦，諏訪部章，
村田 満，宮地勇人，矢富 裕，福武勝幸，
登 勉，三家登喜夫，熊谷俊一，小出典男
各理事
戸谷誠之，中原一彦 各監事
酒井富雄顧問，土屋達行会則改定委員会委
員長が一時陪席

欠席者：荏原順一，石 和久，溝上雅史，犀川哲典
各理事(4名)

開会に先立ち，宮澤幸久理事長から挨拶があった。
その後，松野一彦 理事，三家登喜夫 理事を議事録
署名人に定め，議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

北海道支部報告(松野一彦 支部長)

1. 支部総会の予定

第42回支部総会

期 日：平成20年9月20日(土)

11:20~17:50

場 所：札幌医科大学臨床教育研究棟2階

臨床第1講義室

総会長：渡邊直樹(札幌医科大学医学部

臨床検査医学講座 教授)

内 容：

特別講演：サイアザイド感受性Na-Cl共輸送
体(SLC12A3)遺伝子解析の臨床的意義

弘前大学大学院医学研究科臨床検査医学講座

保嶋 実 教授

一般演題：23題

2. 支部例会の予定

第43回支部例会

期 日：平成21年秋(日時未定)

総会長：藤田昌宏先生

(名寄市立大学保健福祉学部教授)

3. その他の報告事項

平成20年度北海道支部評議員会・総会報告

1) 北海道支部長の選出

伊藤喜久先生の後任に

松野一彦(北海道大学病院検査・輸血部)を選出

2) 北海道支部監事の選出

千葉仁志先生(北海道大学大学院保健科学院教授)，

家子正裕先生(北海道医療大学歯学部内科教授)

3) 本部功労会員の推薦

藤田昌宏先生(名寄市立大学保健福祉学部教授)

を推薦

東北支部報告(荏原順一 支部長欠席の為，

諏訪部章 理事)

1. 支部総会の予定

第41回支部総会

期 日：平成21年8月1日(土)

場 所：コラッセふくしま

総会長：金光 敬二

(福島県立医科大学臨床検査医学 教授)

内 容：未定

2. 支部例会の予定

第32回支部例会

期 日：平成20年12月13日(土)

場 所：「さとみ」コンベンションホール

例会長：荏原 順一

(秋田大学医学部臨床検査医学 教授)

内 容：最新の病態検査

シンポジウム

I. 新型インフルエンザの検査体制について

II. 地域における基準値共有化の現状と動向

III. 性差を考える

特別講演 2題(未定)

3. その他の報告事項

功労会員

佐々木 毅 先生

小亀 圭司 先生

関東・甲信越支部報告(宮地勇人 支部長)

1. 支部例会の予定

第 66 回支部例会

期 日：平成 21 年 5 月(土)

場 所：都立駒込病院講堂

例会長：大林民典(都立駒込病院臨床検査科)

内 容：未定

事務局(連絡先)：

都立駒込病院臨床検査科 大林民典先生

2. 支部総会の予定

第 21 回支部総会

期 日：平成 21 年 9 月 26 日(土)

場 所：国立大学財務経営センター

総会長：米山彰子(虎の門病院)

内 容：未定

事務局(連絡先)：虎の門病院 米山彰子先生

3. その他の報告事項

プログラム委員会(各領域の検査技師幹事)を設置し、第 21 回支部総会(慶応大学 村田満教授)から運用開始した。学術集会は、魅力あるプログラム、参加者数の増加と大きな成果が得られた。

東海・北陸支部報告(登 勉 支部長)

1. 支部総会の予定

第 48 回支部総会

期 日：平成 21 年 3 月 8 日

場 所：岐阜市

総会長：清島 満 教授(岐阜大学)

内 容：未定

2. 支部例会の予定

第 28 回支部例会

期 日：平成 21 年 8 月予定

場 所：福井市

例会長：木藤知佳志 先生(福井県立病院)

内 容：未定

3. その他の報告事項

支部長の交代

溝上雅史先生が転勤(国立国際医療センター国府台病院 肝炎・免疫研究センター)のため、10 月 1 日付けで登勉(三重大学大学院医学系研究科臨床検査医学)に交代。

近畿支部報告(三家登喜夫 支部長)

1. 支部総会の予定

第 52 回支部総会

期 日：平成 21 年 11 月 28 日, 29 日

場 所：京都市勧業館「みやこめっせ」

総会長：佐守 友博(日本医学臨床検査研究所)

内 容：未定

事務局(連絡先)：大阪府吹田市原町 2 丁目 45-1

日本医学臨床検査研究所 TEL: 06-6380-5242

2. 支部例会の予定

第 54 回支部例会

期 日：平成 21 年 6 月 27 日

場 所：近畿大学

例会長：上谿俊法(近畿大学医学部付属病院

臨床検査医学)

内 容：「生活習慣病を診る臨床検査」

事務局(連絡先)：上谿 俊法(近畿大学医学部
付属病院 臨床検査医学)

〒589-8511 大阪狭山市大野東 377-2

TEL: 072-366-0221,

E-mail kamisako@med.kindai.ac.jp

中国・四国支部報告(小出典男 支部長)

1. 支部総会の予定

第 54 回日本臨床検査医学会中国・四国支部総会

(会長 小出 典男)

第 149 回日本臨床化学会中国支部例会・総会

(会長 通山 薫)

第 19 回日本臨床化学会四国支部例会・総会 合同地方会(会長 土井 俊夫)

第 5 回合同地方会

期 日：平成 21 年 2 月 7 日(土)~2 月 8 日(日)

場 所：岡山大学医学部臨床第二講義室

(〒700-8558 岡山市鹿田町二丁目 5 番 1 号)

総会長：岡崎俊朗(鳥取大学医学部医学科
病態解析医学講座・血液腫瘍科)

内 容：

特別講演：平成 21 年 2 月 7 日(土)

1. 臨床検査技師の未来(仮題)

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

戸塚 実

2. 今後の検査部の 方向性(仮題)

東京大学大学院医学系研究科臨床病態検査医学

日本臨床検査医学会ニュース

矢富 裕
シンポジウム：平成21年2月8日(日)
テーマ『遺伝子検査の現状と未来』(仮題)
1. 遺伝子検査の考え方(仮題)
大阪大学大学院医学系研究科臨床検査診断学
高野 徹
2. 血液疾患と遺伝子検査(仮題)
鳥取大学医学部附属病院検査部 松本久幸
3. 遺伝子検査の現状(仮題)
山口大学医学部附属病院検査部 岡山直子
4. 感染症と遺伝子検査(仮題)
鳥取大学医学部感染制御学 堀井俊伸
5. 肺がん遺伝子検査(仮題)
京都大学 三尾直士
一般演題：平成21年2月7日(土)、8日(日)
事務局：鳥取大学医学部附属病院検査部
事務局担当：谷本綾子
TEL：0859-38-6822, FAX：0859-38-6820,
E-mail: tanimoto-ttr@umin.ac.jp

九州支部報告(犀川哲典 支部長欠席のため、
高木 康 理事)

1. 支部総会例会の予定
平成21年度の臨床検査医学会と臨床化学会の九州ブロックの会は合同開催となり、以下の要領で開催予定です。
開催予定日：2009年2月14日(土)
開催場所：福岡市中央区天神1-4-2
エルガーラホール
<http://www.elgalahall.co.jp/>
会 長：
臨床検査医学会 琉球大学 山根誠久
臨床化学会 佐賀大学 出原賢治

2. 各種委員会報告

A. 学術推進化委員会(矢富 裕 担当理事, 委員長)

1)平成17・18年度学術推進プロジェクト研究の最終報告10件が提出されて、担当委員と委員長が点検して、すべて適正と判断された。英語原著論文2件、臨床病理原著論文3件、臨床病理総説4件である。

2)本年11月本年11月の学術集会において、「オーダーメイド医療」のパネルディスカッションを開

催する(第1回プロジェクト研究の成果)。
3)第2回(H19・20)学術推進プロジェクト研究：本年11月の学術集会において、中間報告会を開催する。
4)第3回(H21・22)学術推進プロジェクト研究：臨床病理誌10月号にて研究課題を募集する。

B. 編集委員会(矢富 裕 委員長)

1)トピックス、シリーズについて：4委員からのテーマについて依頼中であり、「トピックス：注目される新しい病態・疾患概念と臨床検査」については他分野についてもご検討いただきたい。

2)退任、新任講演について：

- ・退任 富永真琴教授、勝山 努教授
- ・新任 西郷勝康教授、谷直人教授、三井田孝教授

移動による退任については「定年退職」とすることとなった。

3)学術推進プロジェクトについて

最終成果については、臨床病理誌に原著または総説論文として投稿される場合がある。原著として投稿された場合は、プロジェクトの担当委員による審査に加え、編集委員による通常の審査を行う。また、総説の場合は、プロジェクトの担当委員による審査のみを行う。研究成果として他誌にて報告されたプロジェクトについても、今後は臨床病理誌に総説を書いていただくこととする。また、臨床病理誌への掲載内容については次回に報告する。

4)学会賞受賞者への総説依頼について：

本年度学会賞受賞者へ本誌への総説依頼を行う。内容については編集委員長が確認する。また、来年度よりは受賞者に総説をご寄稿いただきたい旨、学会賞委員会へ要望する。

5)投稿規定の変更について：9月号より新しい投稿規定を掲載した。また、原著論文について組み上がり枚数を5頁から6頁に変更した。

6)座長推薦論文の審査について：座長推薦論文は原則として編集委員が審査を担当するが、編集委員が必要と判断した場合は、査読委員を選定することができる。なお査読委員は編集委員長が選定する。

7)投稿原稿審査について：

2008年投稿状況 9/19現在

投稿総数 55編(新規35, 再投稿20), 掲載受

理 33編, 返却 3編, 取り下げ 1編

項目の充実した CAP サーベイプログラムの活用を検討する。

C. 教育委員会(諏訪部 章 担当理事)

- 1) 卒後研修手帳を作成中である。
- 2) 指導医ガイドラインの作成を計画中である。次回の委員会で検討する予定。

D. 臨床検査点数委員会(宮澤幸久 担当理事,
米山彰子 委員長)

- 1) 今回の診療報酬改定後の実態調査および次期改定への準備のため、評議員へのアンケート調査を行う。

E. 標準化委員会(福武勝幸 担当理事)

- 1) 中国との共同精度管理
- 2) 治験に伴う臨床検査の標準化を委員会に提案できないか検討中。

F. 精度管理委員会(宮地勇人 委員長)

- 1) 2009 年度 CAP サーベイのプログラムについて
 - ・CAP 事務局がシノテストから CGI へ移管された(10月)。
 - ・2009 年の CAP サーベイ案内は CGI(コルビーインターナショナル)から発送することとなった。
 - ・2008 年サーベイに関する問合せ対応はシノテストが行う。
 - ・アンケートの結果、特殊検査サーベイについて、現在の参加施設の 60%近く、その他の大学病院・500 床以上の病院、350~500 床未満の病院の約 40%が参加したいとの回答であった。
 - ・2009 年サーベイの新規のプログラム項目には、治療薬物モニタリング、心筋マーカー、腫瘍マーカー、網赤血球数などがある。
 - ・精度管理 Journal を 1 月発行を目指して作業を進めている。
 - ・CGI, CAP, 学会の 2 者間の契約書内容を検討中である。
- 2) 外部精度評価のあり方の検討について
 - ・外部精度評価に標準化された方法を構築することを目指しているが、EBM 委員会から標準化評価法を作成するのは困難であるとの結論である。
 - ・国内のサーベイでカバーされていない検査項目は病院検査室として重要な項目であるため、これら

【2008 年度 精度管理委員会・議事録】

開催日：2008 年 10 月 9 日 12:20~14:00

場 所：パシフィコ横浜・会議センター 421 号室

出席者：宮澤幸久理事長(帝京大学),
宮地勇人委員長(東海大学),
伊藤機一(大東文化大),
三宅一徳(順天堂大学), Mark Colby,
青木克彦, 大野紘宇, 小口雅子(CGI)
野口保彦, 堀川信之,
鈴木睦美(シノテスト) (敬称略)

1. 精度管理委員長挨拶

来年度は、CAP サーベイの事務局が移管されることになり、サーベイへの新たなサービスが加わることや、精度管理に関するジャーナルの発行がある、また昨年より、精度管理委員会では CAP 以外にも広く外部精度管理のあり方について議論していくことになっている。

2. 日本臨床検査医学会理事長挨拶

精度管理委員会は重要な委員会の一つであると認識している。今年度から特定健診が開始されたこともあり、検査の質を高めるためにも必要である。今後とも内容の確かなサーベイが行われることを期待する。

3. 2008 年度 CAP サーベイ状況報告

・シノテスト・堀川氏より、2008 年度の CAP サーベイ参加施設数とその内訳、新規参加施設と参加を取り止めた施設、及び試料配布状況についての報告がなされた。

・2008 年度参加施設は、106 施設で 2007 年度から 4 施設減少した。新規参加施設は 7 施設、参加中止施設は 11 施設であった。また、参加中止の主な理由は、予算の関係となっているが、詳細は確認していない。

・過去 12 年間の CAP サーベイへの参加施設をまとめた。1997 年には 134 施設の参加施設のうち 36 施設が検査センターであったが、現在は 106 施設のうち 13 施設が検査センターとなっている。一般病院・大学病院の参加施設数には殆ど変動がない。特記事項として、2004 年度には、7 施設の検査センターが CAP 認定取得のため参加を中止している。ま

日本臨床検査医学会ニュース

た、2007年度には、500床以上の病院及び大学病院へのアンケート送付の結果、12施設の新規参加施設を得た。

・2008年度については、全7回の試料配布が全て終了した。11～12月初旬にかけての評価表の返送をもって、2008年度サーベイは終了となる。

4. CAPサーベイアンケート集計結果

・シノテスト・鈴木よりアンケート集計結果に関する報告がなされた。

・CAPサーベイの新たなサービス提供ということで、特殊検査サーベイ・遺伝学的検査サーベイ・e-LAB Solutionsに関するニーズを把握する目的で、2006・2007年度の2年間にわたりアンケートを実施した。対象施設は、現在の参加施設、大学病院(67施設)、500床以上の病院(272施設)、350～500床未満の病院(355施設)。

・特殊検査サーベイについては、現在の参加施設では、60%近くの施設が、参加したいとの回答であった。一方、大学病院・500床以上の病院、350～500床未満の病院では、約60%の施設が参加したくないとの回答であった。

・遺伝学的検査サーベイについては、参加したくないと回答した施設が半数以上を占めた。院内で実施していないとの理由が多かった。

・e-LAB Solutionsについては、英語での対応が困難という理由から利用したくないという施設が多く、日本語でのサービス提供が行われれば利用したいとの施設が多かった。

・新たなニーズの把握と言うことでアンケートを実施したが、実はCAPサーベイの存在が認知されていなかったということが分かった。このアンケートにより参加施設が増加するという効果があったので、今後も定期的に行っても良いと思われる。今後のCAPサーベイのあり方について参考にさせていただきたい。

5. 2009年度CAPサーベイ実施計画

・変更点について以下が承認された

新規サーベイ：心筋マーカー検査(CRT)、腫瘍マーカー検査(TM)、リガンド検査(Y) (「免疫検査-1」に名称変更)、網赤血球数検査(RT)

内容変更：生化学検査→生化学/TDM検査、尿沈渣および血液像：35mmスライドフィルム→カラー写真およびCD-ROM入りイメージ画像

・以下の配布資料を一部修正の上、既存参加施設に配布すること、ならびに新規参加施設開拓のため500床以上の施設に案内を送付することが決定された。

・2009JSLMサーベイプログラム

・2009JSLMサーベイプログラム申込書

・2009年JSLMサーベイ変更点

・CAP日本事務局移転のお知らせ

・2010年追加サーベイ候補として、遺伝子検査があげられた。スムーズな輸入が可能であるか検証の上、最終決定することとなった。

6. IVDジャーナル

・臨床検査の品質マネジメント向上、ならびに世界のIVDの最新情報を提供する目的で、年4回発刊することが承認された。

・編集、発刊作業はすべてCGIが行う。精度管理委員会は、監修ならびにコンテンツ提供(一部)の担うことになる。

7. その他

・委員長より、JSLM-CGI-CAPの三者間でサーベイおよびジャーナルを包括した契約締結を行う必要性があることが指摘された。

・外部精度評価のあり方について、EBLM委員会で、どういった基準でサーベイを評価するべきかという議論を行ったが、適切な基準を設けることはできないとの結論であった。具体的な評価基準を定める前に、ブラインドサーベイで、どの位のCVが出るのかを確認することから始めるのが良いのではとの意見があったが、実施は難しいと思われる。

・従来の生化学や末梢血検査については、機種・システム毎の集約がはかられている中で、検査室の実力を確認できるのは、形態検査や特殊検査である。これらの項目を外部精度評価していくかが重要となる。そういう意味でも、CAPサーベイの新しいパッケージ(特殊検査)の設定により、検査室の実力を評価又は改善していくことができる。これは、精度管理委員会が精度管理のあり方を検討していくという趣旨に合致しており、精度管理委員会としての役目を果たしていると言える。

・外部精度評価のあり方については、今後も引き続き情報収集して意見交換を行っていきたい。

・レファレンスラボラトリー(国内のサーベイの標準となるような施設)の制度を検討しても良いの

ではとの意見がなされた。

G. EBLM 委員会(松野一彦 担当理事)

1) 学術集會中に演習を行う予定であり、多くの応募者がある。

H. 遺伝子委員会(宮地勇人 委員長)

1) ファーマコゲノミクスの運用指針案の検討：ファーマコゲノミクスの運用指針の修正版(Ver.5)をJCCLS 遺伝子専門委員会(10月1日)に諮った。日本人類遺伝学会の委員会と話し合う予定である。

I. 倫理委員会(松野一彦 担当理事)

1) 第1回倫理委員会が村上正巳教授(群馬大学)を委員長として平成20年9月30日に開催された。

2) 「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」-日本臨床検査医学会の見解-の改訂について 議論された。

・2002年の見解の改訂点について以下のような意見の交換があった。

・前文について。第2段落で疫学研究に関する倫理指針、臨床研究に関する倫理指針、個人情報保護法について触れる。第4段落の「患者の立場に立った」は、一般人が読むことを考えて修正した方がよい。

・見解の1について。「管理体制については、各施設内で改めて討議し、定める必要がある。」は曖昧さがあるため削除する。

・見解の2について。「通常」は可能であれば削除する。「匿名化」は「連結不可能匿名化」とする。連結可能匿名化を行う場合については、対応表を厳重に管理することなどで対処する旨を別に記載する。基準値設定について健常者の検体を用いることは、付記3)のままとする。連結不可能匿名化について年齢と性別を例外とするかはあえて触れないが、臨床研究の倫理指針にあるように個人が特定できないようにすることを順守することとする。

・見解の3について。臨床研究の倫理指針に従うこととする。「ただし、測定法の・・・この限りでない。」は2と重なる部分があり、削除してはどうか。「各研究担当者と管理者の判断で」「原則として」とし、倫理委員会の審査を受けることとする。できるかぎり包括的な研究計画書とできるようにす

る。

・見解の4について。残存検体の分与と廃棄については、臨床研究の倫理指針の基づいて行うことを明記して具体的に述べる。

・付記11)について。包括的同意について触れる。

・名古屋で開催される学術集會での中検部長・技師長会議に「残余検体の取扱い」を議題として提出する。

3. 第55回日本臨床検査医学会学術集會報告

(名古屋2008/11/27~30)(登勉 会長)

1) 登学術集會長から集會の進捗状況について説明があった。

2) 宮澤幸久理事長から「座長・司会については、学会員でなければならない」、「ランチョン・イブニングセミナーの座長・司会は学会員であることが望ましい」ことの提言があった。

これに関連して

・学術集會委員長を集會長ではなく担当理事を選出する。

・学術集會でのタイムスケジュールをマニュアル化する。

・全国中検部長・技師長会議のスケジュール、案内送付の責任者を選定する。

4. 第56回日本臨床検査医学会学術集會報告

(札幌2009/8/26~29)(松野一彦 会長)

1) 順調に準備をしており、12月初旬にアンケートを行う。

2) 口頭発表とポスター発表を適切に組み合わせる。

3) 一般会員懇親会を1日目に行う。

5. 第57回日本臨床検査医学会学術集會報告

(東京2009/9/9~12)(宮澤幸久 会長)

1) 2009年9月9日~12日、京王プラザホテルで開催する。

6. 内保連「生体検査委員会」からの「検査技術料試案」作成に係るお願い(米山彰子 庶務理事)

1) 内保連の「検査技術料試案」に検査医学会が積極的に関与する。

日本臨床検査医学会ニュース

7. 同学院からの血液検査技師認定試験についての報告・伺いについて(宮澤幸久 理事長)

1)血液検査技師認定に関して、検査血液学会認定技師試験に移行したい。

2)血液ばかりでなく、生化学、血清、微生物、生理検査、病理検査もあり、十分に検討して結論を出してもらいたい。

8. 大学評価・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会専門委員推薦について(宮澤幸久 理事長)

1)大学評価・学位授与機構から、国立大学教育研究評価委員会 専門委員の推薦依頼があり、常任理事会で検討して、熊谷俊一 先生(神戸大)、松野一彦 先生(北大)、保嶋実 先生(弘前大)、丸山征朗先生(鹿児島大)、田窪孝行 先生(大阪医大)、日野田裕治 先生(山口大)、以上6名を推薦した。

9. 日本医学会用語委員会からの一項目の読み方について(高橋伯夫 副理事長)

1)検査学会に関連する事項・項目について正式な名称として統一する方向で決めてほしい。医学会の方針に従うが、JLAC10 と関連して、正式な名称とする。

10. その他

【審議事項】

1. 平成 20 年度中間決算報告

(玉井誠一 会計理事, 酒井富雄 会計顧問)

1)玉井会計理事から平成 20 年度中間決算報告が行われ、承認された。

2)一般社団法人移行にあたり 11 月 30 日での収支決算を行い、1 月末日までに申告するようになっている。

2. 平成 21 年度会計予算案について

(玉井誠一 会計理事, 酒井富雄 会計顧問)

1)玉井会計理事から平成 21 年度予算案が提示され、承認された。

2)消費税について質問があり、1,400 万円程度が対象となっているので、応分の措置を行った。

3. 簿外預金について

(玉井誠一 会計理事, 酒井富雄 会計顧問)

1)任意団体に残しておいた 1000 万円+利息を、一般社団法人になる前に、基金に組み入れることについて、玉井会計理事、酒井会計顧問から説明があり、承認された。

2)一般社団法人になってから移した場合、課税がされる可能性があるため。

4. 平成 20 年度事業報告について

(高木 康 総務理事)

1)高木総務理事から平成 20 年度事業報告があり、承認された。

5. 平成 21 年度事業計画(案)について

(高木 康 総務理事)

1)高木総務理事から平成 21 年度事業計画(案)が提示され、承認された。

6. 定款、細則改定案について

(高木 康 担当理事, 土屋達行 委員長)

1)土屋会則改訂委員会委員長から定款と細則改定案について説明があった。一般社団法人への移行に伴い、今回の理事会での承認が必要である。

2)大筋については、前回の理事会で承認されており、細かい文言の修正を行うことで、承認された。

7. 平成 21 年度からの功労会員・評議員の推薦について(宮澤幸久理事長)

1)各支部から推薦された候補について常任理事会での討議結果が報告された。

2)功労会員 新 11 名が承認された。

藤田昌宏(北海道支部)、小亀圭司、佐々木 毅(東北支部)、青野悠久子、池田 斉、内山幸信、勝山 努、佐藤豊二、須藤加代子(関東甲信越支部)、牧野英一(中国・四国支部)、小野順子(九州支部)

3)評議員 新 6 名が承認された。

市川徹郎、下 正宗、渡辺眞一郎(関東甲信越支部)、米田孝司(近畿支部)、周防武昭(中国・四国支部)、佐川公矯(九州支部)

・現在、名誉・功労会員などを含めた総会員数から評議員数を算出しているが、本年 12 月 31 日末の正会員数でもう一度評議員を算出する。

・評議員の推薦については、今後、県別の推薦数、同一施設からの推薦数、評議員として推薦されるべき方ということなどを、支部長は考慮して推薦をお願いしたい。

8. 第58回(平成23年度;2011年)学術集会長の推薦について(宮澤幸久 理事長)

1)小出典男支部長(岡山大)が中国・四国支部から推薦され、承認された。

9. 北海道支部、東海・北陸支部、九州支部長の交代について(宮澤幸久理事長)

1)北海道支部長

松野一彦先生に交代(伊藤喜久先生より)

理由：辞任のため

2)東海・北陸支部長

登勉先生に交代(溝上雅史先生より)

理由：他支部へ転勤のため

3)九州支部長

山根誠久先生に交代(犀川哲典先生より)

理由：支部の交代時期のため

・宮澤理事長から、今後は、本部の理事・監事改選の時期に合わせていただくようお願いがあった。

10. 学術推進化委員会委員長交代について

(宮澤幸久 理事長)

1)学術推進化委員会委員長は、前委員長の突然の辞任に伴い応急的に矢富裕先生が務められたが、現

在、本委員会は順調に活動できているため、平成21年1月からは、正式な新委員長の元で活動することとし、矢富委員長より安東由喜雄先生が推薦され、承認された。

11. 医療安全委員会委員追加について

(米山彰子 理事)

1)米山担当理事から、全国レベルでの検討が必要なので、石和久(関東甲信越支部)、森山隆則(北海道支部)、森下芳孝(東北・北陸支部)、岡山昭彦(九州支部)が推薦され、承認された。

12. その他(高木 康 総務理事)

1)高木総務理事から平成20年12月からの一般法人への移行に伴い、理事会(従来どおり)、定時社員総会(評議員)の日程について、提案があり、承認された。

・平成21年度 第1回：

平成21年3月29日(日)13:00~14:00 予定

・平成20年度に関する定時社員総会：

平成21年3月29日(日)15:00~16:00 予定

2)今回の会議は、理事会と同時に一般社団法人への移行のための臨時社員総会であった。

閉会の挨拶

最後に、高橋副理事長から、平成20年度第4回理事会、臨時社員総会閉会の挨拶がなされた。